

令和6年度第1回東広島市環境先進都市推進会議 議事要録

■日時：令和6年7月24日（水）10：00～11：00

■場所：市役所北館2階201会議室

■出席者：《配席表及び委員名簿参照》

○委員：松村会長、水野委員、藤原委員、川口委員、二井委員、
大本委員、西田委員、小倉委員、後藤委員、中村委員

○事務局：環境先進都市推進課

水戸課長、西本参事、永久係長、船越主任、大津主任主事、
小田主任主事、田邊主任主事、秋葉主事、湊主事

○欠席：加栗副会長、神崎委員、佐々木委員

■配布資料

○次第

○配席図

○資料1 第5回脱炭素先行地域の応募状況について

○資料2 道の駅湖畔の里福富太陽光発電設備導入事業（P P A）の経過報告について

○資料3 気候変動適応法改正に伴う指定暑熱避難施設の指定について

○資料4 市広報活動の方向性について ～ひがしひろしま環境フェアの方向性～

■議事概要

1 開会

○事務局による開会

○会長によるあいさつ

○事務局による欠席者の連絡

2 議事

(1) 第5回脱炭素先行地域の応募について

○事務局

事務局から環境省中国四国地方環境事務所へ提出した「第5回脱炭素先行地域の応募状況」の企画概要や、今後のスケジュールについて説明を行った。

(2) 道の駅湖畔の里福富太陽光発電設備導入事業（P P A）の経過報告について

○事務局

事務局から道の駅湖畔の里福富太陽光発電設備導入事業（P P A）のプロポーザル公募の結果報告や、今後のスケジュールについて説明を行った。

○委員からの意見

① 太陽光は自家消費をするのか、売電するのか。

⇒自家消費型である。(事務局)

② 太陽光設置に加え、防水工事も東広島スマートエネルギーが請け負うのか。

⇒太陽光発電設備を導入できることに加え、防水工事までを請け負う業者を選定させていただいたため、すべて東広島スマートエネルギーに実施してもらう。(事務局)

(3) 気候変動適応法改正に伴う指定暑熱避難施設の指定について

○事務局

事務局から気候変動適応法改正に伴う指定暑熱避難施設の概要や、市有施設の指定暑熱避難施設について説明を行った。

○委員からの意見

指定暑熱避難施設に指定されている場所が、災害時の避難施設になっている場所と一致しているところがある。これは、普段より市民の方に避難する癖をつけ、行動を促すことができるため良い。

(4) 市広報活動の方向性について ～ひがしひろしま環境フェアの方向性～

○事務局

事務局からT-プロジェクトである市広報活動の方向性(ひがしひろしま環境フェアの方向性)について協議事項の説明を行った

○委員からの意見

① どのような経緯で環境フェアを実施しなくなったのか詳細を教えてください。

⇒今まで環境フェア実行委員会と市が連携し、補助金と協賛金で運営してきた。その中で、市民への環境活動の啓発というメッセージ性が希薄化してきたと指摘があった。また、環境フェア自体が人を集めるためのイベントになっているとの指摘もあったため、原点に戻って環境啓発に取り組むためにどのようにすればいいかを考え直す経緯となった。それと同時に予算を組まないという方針になった。事務局としては小さなイベントに参加することを考えているが、そのほか委員の皆様からどのように打開していけばいいか知見を伺いたい。(事務局)

② それぞれの企業で既に環境についていろいろな取り組みをしている。そのことを市が企業と連携をしてPRしていくのはどうか。

- ③ 資源の有効活用として環境フェアに参加している。企業として広めたいことはあるがなかなか難しい面もある。現在は小学校でも環境についての学びがある。環境関連イベントに出展するだけではなく、市で実施される様々なイベントにて市の取り組みを広報していくことはどうか。
⇒市のイベントにて取り組んでいくことはとてもよい提案だと思う。
- ④ 環境フェアだけでは啓発活動として効果的ではないと感じ、昨年度はターゲット層を絞って、開催場所を改め、のん太の酒蔵の室内の一部を借りてイベントを行った。道の駅で行うことで、買い物や遊びのついでに寄ってもらえるので、環境への興味が薄い人もターゲットにできる。当日の来場者数は200名程度だったが、環境フェアよりも手ごたえを感じることができた。このことから、既存のイベントに参加するだけではなく、人が集まる場所にて開催するほうがよりたくさんの人に伝わるのではないか。また、人が集まる場所という条件に加えて昨今の熱中症対策として屋根がある場所のほうが良いと考える。
⇒イベントではなく、場所に注目するという点は良いアイデアである。
- ⑤ 一つ一つの活動に対して評価していく必要があると思う。集客という観点であれば、人数を集計し、どのような年齢層がきたのかなどをまとめなければならない。経済合理性の観点からでしか大人は動かないが、子どもは気づきや楽しさから興味関心で学びが続いていく。そこで、子どもをターゲット層にすることで、家族（大人や年長者）を連れて参加してもらうことができるので、子どもが楽しめるようなものを企画していくのはどうか。啓発という観点であればどのように効果があったのかを実際にまとめていく必要がある。例えば、廃棄物を削減することについての企画だったとしたら、参加してどのように取り組んでいくことになったのか、また参加しなかったらどうなったと思われるのかというところまで結果を取りまとめる必要がある。
- ⑥ 企業として参加していくことは賛成。ただ、企業だけではなく、市民が参加できるコンテスト方式で企画するのはどうか。例えば子どもの夏休みの自由研究として環境をテーマにしてもらい、発表の場を設けてはどうか。そこでの発表の場やイベント費などは企業が持つということはいかがか。また、市のイベントである酒まつりで環境について啓発する場を設けることはどうか。
⇒子どもが発表する場をもち、参加してもらうのは良いアイデアである。
- ⑦ 企業として出展するメリットはある。ただ、資料4にあることを踏まえると、企業側は市に出展についての企画書を提出しなければならない。企画書を市に提出すると聞くと、ハードルが高いように思える。そのため、様式やサンプルは市側

で作成してもらい、企業側の作成や提出は簡素なものであるほうが良い。それと同時に、企画審査の基準や結果もどのようなものになるのかを精査する必要がある。企業が出展する際の費用の面については、東広島市と協力して環境を改善していくということを前面に出せば、企業側費用を負担することにおいては問題ないのではないか。最後に、審査の結果、落選することもあるのか。

⇒子どもが発表する場をもち、参加してもらうのはいいアイデアである。また、いかに企業が参加しやすいかが重要になってくる。

⇒企画書を市に提出としたのは、今までの環境フェアでの出展の仕方としてパネルだけ展示し実際にはブースに人がいないという事態があったので、市も協力しながら行うという意図で企画書を提出してもらうという案を出させてもらった。ご指摘の通り、企業が参加しやすいものという観点で再考していきたい。(事務局)

- ⑧ 過去、夏休みの自由研究の相談をテーマとして大学生に協力してもらったことがある。大学生としては教えることを鍛えることができ、集客もできた。そのほかにダンスステージを設け、ダンス発表会と環境のブースを併設することや、その他にも子どもたちの発表の場を設けることで、親子のみならず孫の発表を見るためにおじいちゃんやおばあちゃんまで集客できるのではないかと。

- ⑨ 別主催のイベントに出展しようとしていることについて、イベントを市から企業へ周知し、企業から企画書をもらい、企画書を別のイベントに提出し出展するということか。

⇒今年度の形式は、市が別開催のイベントにおいて区画を借りている。その区画の中で企業に出展してもらう。企業ごとに規模が違うので、市が確保しているスペースの中での区画配分を決めるために市が企画書を取りまとめようと考えている。(事務局)

- ⑩ 昨年度、中央サイエンスパークにおいて環境教育のイベントがあり、ファミリー向けに展示や説明を行った。そのようなイベントもあるので、参加してみてもどうか。また、普段より小学生が環境教育のために見学に来ることもある。

- ⑪ 今年度は環境フェアがなくなったということで、どのようなスケジュールで活動するという計画になっているのか。

⇒今年度は10月にあるエコパークフェアと11月にある広島大学ホームカミングデーにて、市が区画を借りて出展するように計画している。出展の中身については検討中である。また、来年度についても検討中。(事務局)

- ⑫ 今年は市制施行50周年ということで、酒まつりや生涯学習フェスティバルの規

模が大きくなるということはないのか。

⇒規模感については明確に決まっていない。(事務局)

- ⑬ 環境フェアはなくなったということで、実際には実行委員が動いているというよりは市が動いているということで間違いないか。

⇒環境フェアは開催しなくなったので、市が主体となって動いている。本日の意見は来年度に反映させていきたい。(事務局)

- ⑭ 企業に協力を仰ぐ件だが、1年間を通して一緒に取り組むのは企業にも限界がある。その点について市がサポートしながら広報していくのがいいと考える。それぞれの事業について、PRする場をいただけるなら企業にとってもメリットとなる。当社では広島大学と一緒に小さな農業の実施研究を進めているので、進展するようならどこかでPRしたいと考えている

- ⑮ また、広島大学の太陽光についての研究なども発表する場を設けるなども考えてみてはどうか。そういう機会をいただけるのであれば、企画書も出させていただく。

3 閉会

以上